

2 課 屋 台

日本人が外国に住んで2、3年たつとむしように懐かしく思い出すことがいくつかあります。それはおすしや温泉や屋台などです。屋台でおでんを食べながらお酒を飲んでみたいと思うだけで胸が熱くなってくるのです。

外国にもさまざまな屋台があります。屋台をのぞくと、その国の庶民の食生活がわかって非常におもしろいです。

日本の屋台では、「おでん」、「ラーメン」、「焼鳥」、「タコ焼き」、「焼きそば」がよくでています。外国人観光客に人気のある浅草では、1年中いろいろな屋台がでています。これらのほかに「焼きとうもろこし」、「あんずあめ」、「じゃがバター」、「綿あめ」、「お好み焼き」、「手焼きせんべい」などの屋台が寺の境内に所狭しと並んでいます。浅草は毎日がお祭りのようににぎわいです。日本各地のお祭りでも、屋台は欠かせない存在です。子供のころ食べた焼きそばや綿あめの味は、大人になっても忘れられないものです。

日本の屋台は手押し車をちょっとしたレストランや飲み物屋にしたもの。車のまわりに椅子^{いす}をいくつか並べて屋台の開店となる。雨が降るとビニールシートですっぽりと包み、客が雨にぬれないように工夫されている。

ふだん私たちが町で見かけるのは、庶民の大好物のおでんとラーメンの屋台です。夜になると駅前にかくつかの屋台が並びます。駅前是一日働きづめでも体もくたくたのサラリーマンがちょっと一杯ひっかけるのに格好の場所なのです。日本の屋台は食べることも、むしろお酒を飲むために立ち寄る人のほうが多いようです。

屋台は7、8人が肩と肩をあわせながら座れる程度の狭さです。この狭さがまったく気取りのない親しみやすい雰囲気をつくっているのです。くつろいだムードで酒を酌み交わし、ビールをつぎあっているうちに、いつしか疲れも吹き飛んでいってしまうのです。

とくに寒い冬の日^{なべ}に熱いおでんを食べるのは、最高です。おでんは日本人が寒い冬に好んで食べる鍋料理のことで、汁の中には大きく切った大根、じゃがいも、ちくわ、はんぺん、こんにゃく、ゆで卵、昆布、焼き豆腐などの具が入

っています。普通、だしは昆布でとりますが、屋台によっては、鳥肉でとるところもあります。

おでんを食べながら、気のおけない友人、知人とお酒を飲んでいると、体ばかりでなく心の中までポカポカと温かくなっていくのです。

大都会に住むサラリーマンが疲れた体を休め、明日への活力を養う場所が屋台なのです。外国生活の長い日本人が、なぜ屋台を懐かしむのか、おわかりになったでしょうか。

◆大意チェック◆

- ①外国に住んでいる日本人が懐かしく思い出すのはどんなものか。
- ②町で見かける屋台ではどんな食べ物を売っているか。
- ③屋台の狭さはどんな雰囲気をつくっているか。

語句と漢字

やたい 屋台	むしように	なつ 懐かしい	おでん	さまざま
のぞく	しょくせいかつ 食生活	やきとり 焼鳥	たこや タコ焼き	や 焼きそば
あさくさ 浅草	とうもろこし	あんずあめ	じゃがいも	わた 綿あめ
けいだい 境内	ところせま 所狭し	か 欠く	ておくるま 手押し車	ちよつとした
すっぽり(と)	あめ (雨に)ぬれる	くふう 工夫(する)	だいこうぶつ 大好物	はたら 働きづめ
くたくた(に)	ひっかける	かっこう 格好	たよ 立ち寄る	きど 気取り
ふんいき 雰囲気	くつろぐ	くか 酌み交わす	つぎあう	いつしか
ふき飛ば 吹き飛ば	なべりょうり 鍋料理	だいこん 大根	ちくわ	はんぺん
こんにやく	こんぶ 昆布	やきとうふ 焼き豆腐	具	だし
とりにく 鳥肉	きのおけない	ちじん 知人	ポカポカ(と)	かつりよく 活力

バター (butter) ビニールシート (vinyl sheet)

サラリーマン (salaried man/worker) ムード (mood)